

社会科 学習指導計画案

指導教員

実習生

- ・学校名 中学校
- ・日時 2015年 10月23日(金曜日) 第5校時 場所 2年3組 教室
- ・対象 2年3組(生徒数:男子19名 女子20名:合計39名)
- ・単元名 第3章 日本の諸地域 7節 北海道地方—雄大な自然とともに生きる人々の暮らし

・単元の主たる内容と目標

本単元は、北海道地方の雄大な自然とそれとともに生きる人々の暮らしについて扱うものである。広大な自然の恵みを受け、農業や漁業、観光業など特色ある産業が展開されている。他方、冷帯に属するため、われわれとは生活環境が大きく異なる面が多く、また、一度自然災害が起きればその規模も大きい。本単元では、こうした厳しい環境の中で、たくましく生きる人々の姿をとらえさせ自然とともに生きていく力を養いたい。

・単元の指導計画(配当時間および本時の位置づけ)

北海道地方をながめて①——— (1時間)
 北海道地方をながめて②——— (1時間) ……………本時
 雄大な自然とともに生きる人々の暮らし①——— (1時間)
 雄大な自然とともに生きる人々の暮らし②——— (1時間)
 雄大な自然とともに生きる人々の暮らし③——— (1時間)

・本時の主題名 北海道地方の人々の営み②に—北海道地方の人々の営み—

・本時に使用する教材・教具

(教科書 地図帳 予習プリント 授業ノートプリント チョーク 白地図 PC 電子黒板 フラッシュカード)

・本時の目標

北海道で行われている農業の特色を理解させる。

<教材観・題材観>

本単元は、北海道地方の雄大な自然環境やそれらを生かした特色ある産業に着目し、各地域における特色をとらえさせ、地理的諸条件が関連しあって作用していることを自然的条件と社会的条件の両面から関連付けて理解させていくことをねらいとする。本時では広大な平野や盆地、台地で、大規模な農業が行われていること、また、大消費地から離れているために加工に特化して生産が行われていることなどを、身近な実物教材を用いて理解させる。

<生徒観>

生徒にとって北海道とは、小学校5学年時に、「国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活」の単元の中で、地形や人々の生活のあらましを理解しているものの、漠然とした知識であると考えられる。中学校で北海道地方をとりあげるのは、これが初めてであるが、気候区分の学習の際に、他地方と大きく異なることや、これまでの各地方での学習で、それぞれの地域的な諸条件のもとに特色があること、また、日本の産業や貿易の特徴などはすでに学習しているので、それらの知識を活用して、北海道地方の特色ある自然環境や産業、人々の暮らしについて深く理解することができると思う。

<指導観>

漠然としたイメージのある北海道に対して実物教材を提示し、身近なつながりがあることを意識させ、北海道の自然や産

業に対する興味をいだかせ、実感をともなった理解を深めるきっかけとしたい。本時ではICT機器を効果的に用いて要点をおさえ、班学習など言語活動の充実をはかりたい。

・本時の評価の観点

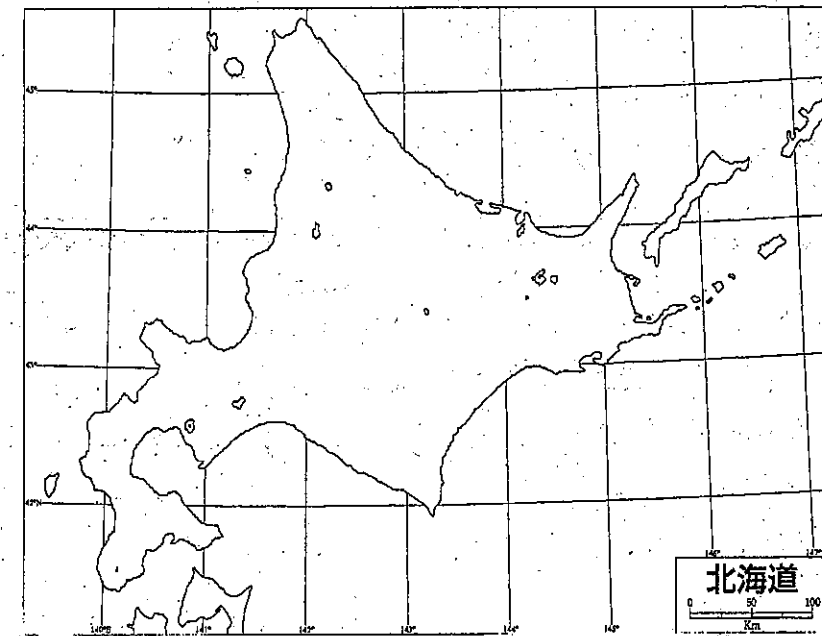
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
北海道の農業について班で討議するなどして積極的に理解を深めることができる。	北海道の農業の特色を自然条件や社会的条件から導き出すことができる。	北海道の農業の特色を地図や図表などを用いて説明することができる。	北海道地方の農業についての基本的な事象を理解することができる。

・本時の指導課程

	指導項目	指導内容	学習活動		指導上の留意点	時間
			教師のはたらきかけ	生徒の学習活動		
導入	学習目標の確認	身近な食品(バター・チーズ)自分たちの生活が北海道にかかわりが深いものにあることを実感させる。	バターやチーズなどの食品を見せて、共通点を考えさせる。	バターやチーズなどの身近な食品が北海道で生産されていることを理解する。	机を班の形に変えるときは静かに行動させる。	5分
		本時の目標を確認する。	本時の目標を確認させる。	本時の目標を理解する。	目標を大きな声で読ませる。	
北海道で行われている農業の特色を理解させる。						
展開	北海道の農業のあらまし	北海道地方の地形の特徴を確認する。	白地図上で食品農作物がどこで盛んに生産されているかを確認させる。		地形及び産地の確認をきちんとする。	5分
	大規模化する酪農	北海道における乳牛一戸あたりの飼育頭数は全国第一位。生乳はチーズ・バターなどに加工されて出荷される。そのことについてグラフを用いて理解させる。また、なぜ飲用ではなく加工するのかを考えさせる。	飲用と加工用のグラフを、北海道と他の都道府県との違いを考えさせる。また、北海道では飲用より加工用の方が多いのかを発問し班で考えさせる。	グラフの違いを理解する。北海道では飲用より加工用の方が多いのはなぜかを班で考える。大消費地から離れているため、加工に特化していることを理解する	北海道の地理的な特徴を理解させる。	15分
	広大な農地を生かした畑作	十勝平野は、日本を代表する畑である。十勝平野の特徴的な栽培方法は「輪作栽培」である。輪作栽培を行うことで土地の栄養バランスが取れ、安定して収穫を	十勝平野は輪作栽培がさかんに行われている。スライドの資料を見せる。なぜこのような輪作栽培を行うのか	土地の栄養バランスを保ち安定した収穫を得るために輪作を行っていることを理解する。		10分

北海道地方の人々の営み

目標：北海道地方をではどのような農業が行われているのだろうか。



農業	地形	特徴

	<p>行うことができる。 結果、十勝平野では全国の半分以上を占める出荷量の野菜が多く栽培されていることを理解させる。</p> <p>畑作地域の一部で酪農と畑作をあわせた混合農業が営まれていることを理解させる。</p> <p>石狩平野、上川盆地は稲作がさかんな地域である。しかし元々は泥炭地で米の栽培に適している環境ではなかった。 そのため客土を行い土の改良を行い、稲の品種改良も行った。 結果、全国1、2位を競う米産地になったことを理解させる。</p>	<p>を発問する。</p> <p>畑作で牧草を作り酪農で育てている牛のエサとして提供する。</p> <p>石狩平野・上川盆地は泥炭地で、元々は米の栽培には適していなかったことを説明しながら、板書をする。 なぜ日本有数の稲作地域になったのかを考えさせる。</p>	<p>客土や稲の品種改良を行い生産高が増加したことを理解する。</p>	<p>稲作に必要な条件と理解させる。</p>	10分
整理	<p>まとめ 北海道ではどのような農業が行われているのかをまとめる。</p>	<p>北海道では各地域で酪農や畑作、稲作が行われていることをまとめる。</p>	<p>本時の授業を自分でまとめる。</p>	<p>まとめは各自で行わせているので、私語がないように机間指導を行う。</p>	5分